

## 令和6年度 重点研究推進計画

### 1 研究教科について

国語

- ① 自分の考えを表現する力
- ② 対話を通して学び合う力
- ③ 他教科の中でも生かすことのできる力

昨年度のふり返りの中で吹き出しの中のような力を身につけさせたいとあった。

このことから、国語科で自分の思いや考えを相手に伝える力を身に付けていきたい。そのために必要な手立てや教材づくりを考えていくことができるような研究を進めていきたい。

### 2 研究テーマについて

主体的に学習に取り組む力を育む  
～ 子どもがわくわくする授業づくりをめざして ～

#### ○子どもが**主体的**に学習に取り組む姿

- ・今日の学習では、〇〇をしたい、できるようになったことが増えたと感じている姿。
- ・自分の考えや思いを自分の言葉で表現したり、伝えたりする姿。
- ・対話を通して学び合う姿。

#### ○子どもが**わくわく**し、前のめりになって取り組めるような授業づくり

- ・子どもが主体的に取り組める授業を実践していくために、教材研究や授業づくりを深めていく必要がある。

### 3 研究仮説

教材研究を深め、子どもがわくわくする授業づくりを行えば、  
子どもが主体的に学んでいく力、学び続けていく力が身につくだろう。

子どもが学びたくなる課題づくり、そのための手立てを考えるために、教材研究を深めた

いと考える。そこから子どもがわくわくするような授業づくりをめざし、主体的に学ぼうとする姿が見られると考える。

#### 4 研究内容

##### (1) 子どもが主体的に学習に取り組む授業づくり

子どもがわくわくする言語活動を通して、「分かった」「できた」を実感できる授業をめざす。

##### (2) 共同研究のあり方

最小単位を学年とし、ブロック、学年で共に研究を進める。単元設定から目的、指導案についても一緒に議論を重ね研究を深めていく。先行授業は学年だけでなく、ブロック、部会も一緒に参観し、よりよい手立てを考えていく。

#### 5 研究方法

##### (1) 研究テーマ達成のための公開授業

- ・各学年一人以上が研究授業を行う。年間、授業研究会を5回行う。
- ・研究授業に至るまでは、授業者のみならず学年、ブロック、部会で指導案検討ならびに先行授業研究を行い、授業に臨むようにする。
- ・低学年(1・2・3年、個別)、高学年(4・5・6年)部会を設置し、部会ごとに指導案検討をすすめる。
- ・授業後の研究会は、部会ごとに分かれて協議の後、全体会で内容を共有し講師より指導・講評をいただく。研修などを伴う場合は、協議の場所も変更となることもある。

※指導案は事前に講師の先生に送るため、検討した箇所の修正後、授業研究会の10日前までに作成し、講師の先生の数+4部(校長先生・副校長先生・雨宮・平林)印刷して渡す。チェックが入った場合は、訂正後、印刷担当者へ渡す。

##### (2) 授業研の記録を通じた研究内容の共有

- ・授業研の際に、ふり返りシートを活用し全員が同じ視点のもと授業を参観し合い、つながられるようにする。
- ・部会で出た意見をもとに、A部会が全体会で記録をまとめ、全体で共通のイメージをもって研究していくようにする。
- ・授業者は授業発表した単元終了後、速やかに指導案に考察を加え、重点研フォルダにデータで入れる。